

介護福祉学科生の「老人のイメージ」と「老後観」

澁谷正子

Research on the Impression of the Elderly and their Outlook after Ageing Result of the questionnaire to the students of Care and Welfare Department

Masako SHIBUYA

要旨： 本学介護福祉学科の1年次生に対して、老人に対するイメージと自身の老後観の調査を行った。その結果、老人に対して好意的・プラスイメージを持っている者が多かった。要因として、学生の約7割が祖父母との同居経験を有している。親の介護は自然なこととして、負担・迷惑とは思っていないが、自分の老後については、子供に負担・迷惑をかけることと考えており、自活生活が困難になったら施設入所を考えている。現制度の老人施設に対しては、介護側にとっては良いが、介護される立場なら生活の場としても好ましくないと考えている。学生は、入学を機に「老い」を真剣に考え、超高齢化社会を現実的なものとして受けとめている。将来を、充実した楽しい老後にしたいと考えており、自分たちの老後のためにも社会的サービスの充実を自ら参画して築こうという気概をよみとれる。

キーワード：イメージ 老い 同居 親 老後観

Summary : The impression in a questionnaire research about the elderly and students' views when they were becoming old in the future, were ascertained on the freshmen of the Department at the College. According to their replies, there were many students who had good and affirmative images on the old.

About 70% of the students have experiences of living together with their grand fathers and mothers for some period of their live. They think that, "taking care of the parents" is a matter of course from the very nature, without taking burdens and troubles. But most of them did not wish for any help from their children. If, when they could not receive self-support, they would have been anticipating entering into some public service institution. As to the present organizations for the service of welfare for the old, they are thinking that, the organization convenient for supporting staff side, but not for receiving side.

Key word : impression, elderly, with live

はじめに

日本赤十字秋田短期大学（以下、本学とする）が、看護学科と介護福祉学科を併設して開学したのを機に、初めて介護福祉士教育に取り組み3年を経過した。手探り状態での介護福祉教育に、戸惑いを感じながら現在に至っている。少子化・超高齢化の現代、介護福祉士を自らの専門職として選択して入学してくる学生たちの多くは、卒業後介護福祉士として老人施設に勤務している。さらに福祉系大学へ編入学していく者や、将来に備え

て働きながら通信教育で福祉を学ぶ者もいる。また、少数ながら看護婦・保母を目指したいと考える学生もいる。本学介護福祉学科の学生と関わるうちに、介護福祉学科の学生の気質に共通するものがあることを感じ、これらの学生を対象に、老人に抱いているイメージと学生自身の老後観を調査したので報告する。

I. 研究目的

(1) 本学介護福祉学科学生の、老人に対するイ

メージとその要因を調査する。

- (2) 学生自身の老後観を知り、今後の介護福祉士教育のなかに導入していく。

II. 研究方法

- (1) 方法：質問紙調査（老人のイメージ）、および記述による方法（自身の老後）により得た結果から考察する。
- (3) 対象：本学介護福祉学科学生 158名（2期生48名、3期生55名、4期生55名）
- (4) 時期：質問紙調査は入学した年の5月（H9、10、11年）記述は1年次の講義終了時1月（H9年度、10年度の103名）

III. 結果

調査対象158名中、祖父・祖母と同居の経験のあるものは114名（72.2%）おり、そのうち90名（57%）は生下時より現在まで同居していると答えている。（114名中、現在同居中のもの101名（63.9%）、過去に同居し、現在別居中のもの13名）祖父・祖母と同居の経験がない学生は44名（27.8%）であった。同居経験なしの学生44名のうち、祖父母としばしば、または、毎日会う機会があったと答えたものが24名（15.2%）。時々会った・たまに会った・ほとんど会わないという学生は20名（1.3%）であった。

質問紙調査の結果分析にあたって、次の4群に分類して読み取りをすることとした。

I群：生後から現在まで祖父母と同居（90名）

II群：同居経験あり

（現在は別居の13名を含む）（24名）

III群：同居経験ないが毎日、またはしばしば会う機会あった。（24名）

IV群：同居経験なく、あまり会う機会がなかった。（20名）

老人を身近な存在と感じているものは、I群では強く感じている52名（57.8%）を含む88名（97.8%）であった。II群では強く感じている9名（37.5%）を含む18名（75%）が身近な存在と感じているが、どちらでもない・あまり感じないとしたものが6名（25%）あった。III群の同居経験ないが、毎日またはしばしば会う機会があったものの79.1%が老人を身近な存在としている。IV群の同居経験のなく、あまり会う機会もなかったものは、強く感じているのは20名中1名であっ

た。身近に感じていないもの30%、どちらでもないと答えたもの15%を加えると45%の学生が身近に感じていないという結果であった（表I-1： $P < 0.01$ ）。

老人に対する好感度は、I群では好きと感じていると答えたものが67名（74.5%）であった。調査対象全体をみると、118名と全体の76%にあたる学生が老人に好感を持っている結果が出ている（表I-2： $P < 0.01$ ）。

老人介護に不安を感じているかについては、I群では不安を感じていないもの15名（16.6%）おり、不安であるとしたもの63名（81.1%）を大きく上回っている（表I-5： $P > 0.20$ ）。

また、老人問題に対する関心は、I群では関心の高まりを感じているものが82名（91.1%）であった。全体158名中、131名（82.9%）が老人問題に関心の高まりを感じていることがわかった（表I-6： $P < 0.05$ ）。

表IIの老人のイメージは、対象の学生全体でプラスイメージがマイナスイメージを上回る結果が多かった。祖父母との同居経験の有無により有意差および傾向差が見られたのは表IIの（6、8、9、10、11）の5項目であった。以上の調査結果より本学介護福祉学科学生は老人に対して好意的、プラスイメージを持っている者が多いが、その要因として背景に、祖父母と同居している者が多く、別居であっても身近に接している者が多いことがあげられる。自由記述の中の老後観からは、（数系処理はできなかったが）祖父母の介護をしている母親を見ながら成長し、祖父母が家族とともに暮らすのを理想的な老後と考えているものもあった。母親が苦勞していると感じ、手伝いたいがいまくできない（できなかった）経験をもつ者もいる。親の老後は、福祉サービスを利用しながら住み慣れた家で最後まで自分で介護したいと記した学生が103名中42名（40.8%）いた。親自身が迷惑をかけたくないから施設へ行くとっても、現状の施設へは入れたくないと考えている学生が殆どである。一方、施設入所の祖父母のいる学生は、祖父母の本心を、家に帰りがっていると言っている。

自身の老後については、在宅で伴侶と共に自活可能な限りゆっくり過ごして最後を迎えるのが理想としている。近所のお年寄りや声を掛け合いながら、住み慣れた家と地域で暮らしたいと考えている。今から老後のためにお金を貯めて、老後も

住める家を建てるリフォームすることも考えているものもいた。集団で生活するより、一人でも安心して暮らせる環境を整えようと考えている記述が32名（31%）にあった。しかし、もし痴呆や寝たきりになったら、ずっといられる施設へ入所させてもらいたいと考えている学生も24名（23.3%）いた。その場合、心にゆとりをもって生活できる施設を望んでいる。サービスを今以上に増やし、利用しやすい、暮らしやすいように、安心して老後を迎えられるような社会を望んでいることがわかった。

約半数の学生が、介護する側にとって施設はいいが、介護される立場なら生活の場としても現実の施設はよくないと思っている記述であった。学生は今の施設を終の住家とはいええないとして、介護福祉学科で学ぶことは、そのような現場（施設）に適応するためだけではない。改善していくという気概をもつことが大切と考えている。現在の施設のサービスや、居住環境に満足できないと考えていることが記述されている。自分の老後を過ごしたいと心から思える施設に、自分の職場をしたいとしている。

IV. 考察

本学介護福祉学科の学生は、入学を機に「古い」を真剣に考え、超高齢化社会を現実的なものとして受けとめている。家族の老い続ける姿を通して自身の老いを現実視し、現状のままでは決して満足できないと感じている。施設のイメージが、入学前に比べ長所・短所を知ったことで、自身の老後と照らし、終身介護付き利用権のホームや、シルバーハウジング等に体験入所して、自身の居場所を検討しようという考えに至っている。

また、自らは親の介護を負担と考えていないが、自分の老後は子供の世話になることは迷惑をかけることと考えている。これは、祖父母・父母世代と共に暮らしてきた学生が、実体験から得た本音

と考えられる。このことは、今後の学習の中に生かしていける貴重な結果と捉えている。高齢者が「身内に負担、迷惑をかけたくない」と思わないで済む介護、そして家族が「負担、迷惑と思わない」のでできる介護を追求していくことが、学生の思考をより広く深くしていくことに繋がると思われる。自分たちが高齢期になる時代は、今より良い施設、サービスも多様化していくことを見据え、社会の変化や介護のありようを見つめていく前向きな意思が感じられる。さらに、自分たちが高齢になったときのことを考えて、介護福祉学科で学ぶことで貢献しようとしていることが伺える。入学後1年間の、実習を含んだ学習により、学生の思考をより深刻にさせる機縁になったとも思われる。入学時には漠然としていた自分自身の老後を真剣に考えるに至っており、楽しみにして老後を迎えられるように何かしなければと切実に感じていると思われる。これらのことから、本学介護福祉学科学生の考える老後は、自分たちのためにも福祉サービス、施設サービスの充実を自ら参画して築こうという気概が感じられる。

V. 結論

- 1) 本学介護福祉学科の学生は、老人に対して好意的イメージををもちている者が多い。要因として祖父・祖母と同居している者の及び同居の経験をもつ者が多いことがある。
- 2) 親の介護は自然なこととして、負担・迷惑とは思っていない。修得した知識・技術をいかして、在宅で家族と最後まで共に暮らすという意思をもちている。
- 3) 自身の老後について深く掘り下げて考えており、子供に対しては介護を期待していない。負担・迷惑をかけることとして自活生活が困難になったら施設入所を考えている。
- 4) 自分の老後を見据えた上で、生活設計福祉サービスの整備を考えている。

<質問紙調査結果（抜粋）>

調査対象：介護福祉学科一年次 158名

調査期日：平成9・10・11年5月

調査結果

I群：生後から現在まで祖父・祖母と同居	：90名（57.0%）
II群：同居経験あり（現在別居13名含む）	：24名（15.2%）
III群：同居経験ないが、毎日またはしばしば会う機会あり	：24名（15.2%）
IV群：同居経験なく、あまり会う機会なかった	：20名（12.7%）

(以下は +・- はプラスイメージ、マイナスイメージを示すものとして、
 +3：非常に感じる +2：かなり感じる +1：やや感じる 0：どちらでもない
 -1：あまり感じない -2：ほとんど感じない -3：全く感じない として集計)

表1-1 老人を身近な存在と感じているか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	52 (57.8)	25 (27.8)	11 (12.2)	2 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	2.41	0.79
II群	9 (37.5)	8 (33.3)	1 (4.2)	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.71	1.40
III群	8 (33.3)	5 (20.8)	5 (20.8)	2 (8.3)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.42	1.53
IV群	1 (5.0)	4 (20.0)	6 (30.0)	3 (15.0)	4 (20.0)	2 (10.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	0.45	1.40
全体	70 (44.3)	42 (26.6)	23 (14.6)	10 (6.3)	10 (6.3)	3 (2.1)	0 (0.0)	158 (100.0)	1.91	1.31

$\chi^2=49.3$ (df=15) ** p<0.01

表1-2 老人を好きだと感じているか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	27 (30.0)	24 (26.7)	16 (17.8)	18 (20.0)	5 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	1.56	1.26
II群	0 (0.0)	9 (37.5)	10 (41.7)	5 (20.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.17	0.75
III群	4 (16.7)	8 (33.3)	8 (33.3)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.46	1.04
IV群	0 (0.0)	8 (40.0)	4 (20.0)	5 (25.0)	0 (0.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.65	1.49
全体	31 (19.6)	49 (31.0)	38 (24.1)	31 (19.6)	6 (3.8)	2 (1.3)	1 (0.6)	158 (100.0)	1.37	1.23

$\chi^2=44.7$ (df=18) ** p<0.01

表1-3 老人との人間関係の中で安心感や満足感を感じるか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	11 (12.2)	19 (21.1)	28 (31.1)	22 (24.4)	10 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	0.99	1.18
II群	2 (8.3)	6 (25.0)	6 (25.0)	6 (25.0)	4 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.83	1.21
III群	1 (4.2)	6 (25.0)	8 (33.3)	7 (29.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.3)	24 (100.0)	0.71	1.40
IV群	0 (0.0)	5 (25.0)	8 (40.)	1 (5.0)	3 (15.0)	3 (15.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	0.45	1.40
全体	14 (8.9)	36 (22.8)	50 (31.6)	36 (22.8)	17 (10.8)	3 (2.1)	2 (1.3)	158 (100.0)	0.85	1.26

$\chi^2=43.5$ (df=18) ** p<0.01

表1-4 老人に接する時コミュニケーションが困難だと感じるか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	8 (8.9)	9 (10.0)	26 (28.9)	4 (4.4)	31 (34.4)	10 (11.1)	2 (2.2)	90 (100.0)	0.12	1.57
II群	0 (0.0)	4 (16.7)	7 (29.2)	4 (16.7)	7 (29.2)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.17	1.25
III群	1 (4.2)	4 (16.7)	6 (25.0)	3 (12.5)	10 (41.7)	0 (0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.29	1.27
IV群	0 (0.0)	2 (10.0)	6 (30.0)	4 (20.0)	5 (25.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.10	1.34
全体	9 (5.7)	19 (12.0)	45 (28.5)	15 (9.5)	53 (33.5)	14 (8.9)	3 (1.9)	158 (100.0)	0.13	1.45

$\chi^2=7.6$ (18) ns p>0.20

表1-5 老人の介護に対して不安を感じているか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	0 (0.0)	4 (4.4)	11 (12.2)	2 (2.2)	39 (43.3)	25 (27.8)	9 (10.0)	90 (100.0)	1.08	1.28
II群	0 (0.0)	1 (4.2)	3 (12.5)	1 (4.2)	10 (41.7)	5 (20.8)	4 (16.7)	24 (100.0)	1.13	1.33
III群	1 (4.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	2 (8.3)	10 (41.7)	6 (25.0)	3 (12.5)	24 (100.0)	1.04	1.43
IV群	0 (0.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	1 (5.0)	8 (40.0)	6 (30.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.90	1.26
全体	1 (0.6)	7 (46.7)	18 (11.4)	6 (3.8)	67 (42.7)	42 (26.6)	17 (10.8)	158 (100.0)	1.06	1.30

$\chi^2=11.0$ (18) ns $p>0.20$

表1-6 老人問題に対して関心の高まりを感じているか 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	26 (28.9)	33 (36.7)	23 (25.6)	6 (6.7)	2 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	1.83	0.99
II群	3 (12.5)	12 (50.0)	7 (29.2)	2 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.67	0.80
III群	9 (37.5)	8 (33.3)	3 (12.5)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.87	1.17
IV群	3 (15.0)	8 (40.0)	5 (25.0)	0 (0.0)	2 (10.0)	0 (0.0)	2 (5.0)	20 (100.0)	1.10	1.73
全体	41 (25.9)	61 (38.6)	38 (24.1)	11 (7.0)	5 (3.2)	0 (0.0)	2 (1.3)	158 (100.0)	1.72	1.14

$\chi^2=27.3$ (18) * $p<0.05$

<老人のイメージ>+・-はプラス、マイナスのイメージを示し、それぞれ
3：非常に思う 2：かなり思う 1：やや思う 0：どちらでもないの回答

表2-1 <弱い：強い> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	6 (6.7)	21 (23.3)	31 (34.4)	22 (24.4)	5 (5.6)	4 (4.4)	1 (1.1)	90 (100.0)	0.83	1.23
II群	3 (12.5)	7 (29.2)	8 (33.3)	4 (16.7)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.17	1.21
III群	3 (12.5)	1 (4.2)	14 (58.2)	5 (20.8)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.00	0.96
IV群	3 (15.0)	4 (20.0)	8 (40.0)	5 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	1.25	0.99
全体	15 (9.5)	33 (20.9)	61 (38.6)	36 (22.8)	7 (4.4)	5 (3.2)	1 (0.6)	158 (100.0)	0.96	1.17

$\chi^2=13.6$ (18) ns $p>0.20$

表2-2 <やさしい：こわい> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	4 (4.4)	21 (23.3)	33 (36.7)	25 (27.8)	4 (4.4)	3 (3.3)	0 (0.0)	90 (100.0)	0.86	1.07
II群	3 (12.5)	3 (12.5)	9 (37.5)	7 (29.1)	2 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.92	1.11
III群	4 (16.7)	5 (20.8)	6 (25.0)	5 (20.8)	2 (8.3)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.92	1.47
IV群	1 (5.0)	7 (35.0)	6 (30.0)	4 (20.0)	0 (0.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.90	1.41
全体	12 (7.6)	36 (22.8)	54 (34.2)	41 (25.9)	8 (5.1)	6 (3.8)	1 (0.6)	158 (100.0)	0.88	1.19

$\chi^2=20.2$ (18) ns $p>0.20$

表2-3 <純粹：不純> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	7 (7.8)	20 (22.2)	21 (23.3)	30 (33.3)	12 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	0.78	1.16
II群	2 (8.3)	5 (20.8)	6 (25.8)	9 (37.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	1 (4.2)	24 (100.0)	0.75	1.30
III群	2 (8.3)	4 (16.7)	3 (12.5)	13 (54.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.58	1.19
IV群	0 (0.0)	2 (10.0)	6 (30.0)	9 (50.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	0.30	0.95
全体	11 (7.0)	31 (19.6)	36 (22.8)	61 (38.6)	16 (10.1)	2 (1.3)	1 (0.6)	158 (100.0)	0.68	1.18

$\chi^2=20.4$ (18) ns $p>0.20$

表2-4 <かわいい：憎らしい>

実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	6 (6.7)	17 (18.9)	27 (30.0)	35 (38.9)	5 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	0.82	1.02
II群	2 (8.3)	4 (16.7)	7 (29.2)	11 (45.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.88	0.97
III群	2 (8.3)	5 (20.8)	8 (33.3)	8 (33.3)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.96	1.02
IV群	1 (5.0)	2 (10.0)	7 (35.0)	10 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	0.70	0.84
全体	11 (7.0)	28 (17.7)	49 (31.0)	64 (40.5)	6 (3.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	158 (100.0)	0.84	0.99

$\chi^2=4.7$ (12) ns $p>0.20$

表2-5 <好意的な：否定的な>

実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	2 (2.2)	9 (10.0)	25 (27.8)	30 (33.3)	17 (18.9)	7 (7.8)	0 (0.0)	90 (100.0)	0.20	1.16
II群	0 (0.0)	5 (20.8)	7 (29.2)	8 (33.3)	2 (8.3)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.46	1.15
III群	0 (0.0)	4 (16.7)	6 (25.0)	10 (41.7)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.38	1.03
IV群	0 (0.0)	2 (10.0)	3 (35.0)	9 (45.0)	4 (20.0)	2 (10.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	-0.05	1.07
全体	2 (1.3)	20 (12.7)	41 (25.9)	57 (36.1)	26 (16.5)	12 (7.6)	0 (0.0)	158 (100.0)	0.23	1.14

$\chi^2=7.9$ (15) ns $p>0.20$

表2-6 <あたたかい：つめたい>

実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	9 (10.0)	25 (27.8)	33 (36.7)	16 (17.8)	6 (6.7)	1 (1.1)	0 (0.0)	90 (100.0)	1.13	1.10
II群	2 (8.3)	12 (50.0)	5 (20.8)	4 (16.7)	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.42	1.00
III群	8 (33.3)	6 (25.0)	6 (25.0)	4 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.75	1.09
IV群	2 (10.0)	3 (15.0)	10 (50.0)	5 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	1.10	0.89
全体	21 (13.3)	46 (29.1)	54 (34.2)	29 (18.4)	7 (4.4)	1 (0.6)	0 (0.0)	158 (100.0)	1.27	1.08

$\chi^2=21.5$ (15) + $p<0.20$

表2-7 <おだやか：はげしい>

実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	7 (7.8)	23 (25.6)	41 (45.6)	12 (13.3)	7 (7.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	90 (100.0)	1.12	1.00
II群	1 (4.2)	7 (29.2)	7 (29.2)	7 (29.2)	1 (4.2)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.88	1.13
III群	4 (16.7)	5 (20.8)	8 (33.3)	4 (16.7)	2 (8.3)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	1.08	1.32
IV群	1 (5.0)	6 (30.0)	10 (50.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	1.10	1.09
全体	13 (8.2)	41 (25.9)	66 (41.8)	24 (15.2)	11 (7.0)	3 (1.9)	0 (0.0)	158 (100.0)	1.08	1.09

$\chi^2=14.5$ (15) ns $p>0.20$

表2-8 <犠牲的：利己的>

実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	0 (0.0)	10 (11.1)	15 (16.7)	38 (42.2)	14 (15.6)	11 (12.2)	2 (2.2)	90 (100.0)	-0.78	1.20
II群	1 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (70.8)	2 (8.3)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100.0)	-0.33	1.11
III群	1 (4.2)	2 (8.3)	4 (16.7)	13 (54.2)	2 (8.3)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.21	1.12
IV群	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (15.0)	6 (30.0)	5 (25.0)	5 (25.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	-0.75	1.13
全体	2 (1.3)	12 (7.6)	22 (13.9)	74 (46.8)	23 (13.3)	21 (13.3)	4 (2.5)	158 (100.0)	-0.16	1.20

$\chi^2=25.0$ (18) + $p<0.20$

表2-9 <頼りになる：頼りない> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	4 (4.4)	20 (22.2)	25 (27.8)	24 (26.7)	10 (11.1)	6 (6.7)	1 (1.1)	90 (100.0)	0.58	1.31
II群	3 (12.5)	8 (33.3)	2 (8.3)	7 (29.2)	1 (4.2)	2 (8.3)	1 (4.2)	24 (100.0)	0.79	1.63
III群	3 (12.5)	3 (12.5)	3 (12.5)	11 (45.8)	4 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.58	1.26
IV群	0 (0.0)	4 (20.0)	6 (30.0)	5 (25.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.20	1.47
全体	10 (0.6)	35 (22.2)	36 (22.8)	47 (29.7)	6 (10.1)	11 (7.0)	3 (1.9)	158 (100.0)	0.56	1.38

$\chi^2=22.8$ (18) + $p<0.20$

表2-10 <頼りになる：頼りない> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	0 (0.0)	10 (11.1)	23 (25.6)	34 (37.8)	18 (20.0)	5 (5.6)	0 (0.0)	90 (100.0)	1.67	1.05
II群	3 (12.5)	3 (12.5)	2 (8.3)	9 (37.5)	5 (20.8)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.33	1.46
III群	0 (0.0)	4 (16.7)	3 (12.5)	13 (54.2)	3 (12.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	24 (100.0)	0.25	1.01
IV群	0 (0.0)	1 (5.0)	6 (30.0)	8 (40.0)	1 (5.0)	2 (10.0)	2 (10.0)	20 (100.0)	-0.15	1.35
全体	3 (1.9)	18 (11.4)	34 (21.5)	64 (40.5)	27 (17.1)	10 (0.6)	2 (1.3)	158 (100.0)	0.16	1.16

$\chi^2=40.9$ (18) ** $p<0.01$

表2-11 <独立的：依存的> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	0 (0.0)	3 (3.3)	11 (12.2)	31 (34.4)	29 (32.2)	14 (15.6)	2 (2.2)	90 (100.0)	-0.51	1.07
II群	0 (0.0)	1 (4.2)	1 (4.2)	11 (45.8)	10 (41.7)	0 (0.0)	1 (4.2)	24 (100.0)	-0.42	0.91
III群	0 (0.0)	1 (4.2)	2 (8.3)	10 (41.7)	5 (20.8)	4 (16.7)	2 (8.3)	24 (100.0)	-0.63	1.22
IV群	0 (0.0)	4 (20.0)	3 (15.0)	5 (25.0)	5 (25.0)	3 (15.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	0.00	1.63
全体	0 (0.0)	9 (5.7)	17 (10.8)	57 (36.1)	49 (31.0)	21 (13.3)	5 (3.2)	158 (100.0)	-0.45	1.12

$\chi^2=20.2$ (15) + $p<0.20$

表2-12 <生き生きした：生気のない> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	3 (3.3)	8 (8.9)	16 (17.8)	30 (33.3)	22 (24.4)	10 (11.1)	1 (1.1)	90 (100.0)	-0.04	1.27
II群	0 (0.0)	3 (12.5)	2 (8.3)	10 (41.7)	4 (16.7)	3 (12.5)	2 (8.3)	24 (100.0)	-0.33	1.37
III群	1 (4.2)	0 (0.0)	5 (20.8)	10 (41.7)	4 (16.7)	3 (12.5)	1 (4.2)	24 (100.0)	-0.21	1.26
IV群	0 (0.0)	3 (15.0)	2 (10.0)	7 (35.0)	5 (25.0)	3 (15.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	-0.15	1.24
全体	4 (2.5)	14 (8.9)	25 (15.8)	57 (36.1)	35 (22.2)	19 (12.0)	4 (2.5)	158 (100.0)	-0.13	1.29

$\chi^2=13.2$ (18) ns $p>0.20$

表2-13 <楽しい：寂しい> 実数 (%)

	+3	+2	+1	0	-1	-2	-3	計	mean	S.D.
I群	3 (3.3)	14 (15.6)	18 (20.0)	19 (21.1)	25 (27.8)	8 (8.9)	3 (3.3)	90 (100.0)	0.06	1.43
II群	1 (4.2)	4 (16.7)	7 (29.2)	5 (20.8)	5 (20.8)	1 (4.2)	1 (4.2)	24 (100.0)	0.33	1.40
III群	1 (4.2)	2 (8.3)	3 (12.5)	8 (33.3)	3 (12.5)	6 (25.0)	1 (4.2)	24 (100.0)	-0.33	1.49
IV群	1 (5.0)	4 (20.0)	4 (20.0)	2 (10.0)	6 (30.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	20 (100.0)	0.10	1.61
全体	6 (3.8)	24 (15.2)	32 (20.3)	34 (21.5)	39 (24.7)	17 (10.8)	6 (3.8)	158 (100.0)	0.04	1.47

$\chi^2=13.8$ (18) ns $p>0.20$